

# 令和5年度府中市立若松小学校授業改善推進プラン（学校全体の取組）様式1

## 1 現状及び課題等

### (1) 学習改善の視点（児童の学び方）

- ①基礎・基本を確実に定着させる
- ②学習への興味・関心・意欲をもたせる
- ③主体的に考え、他者と協働し、課題解決をする力を付けさせる

### (2) 指導改善の視点（教師の指導方法）

- ①指導の個別化  
○少人数授業 ○デジタルドリル ○個に応じたワークシート
- ②学習の個性化  
○ICTの活用 ○学びの道筋の多様化 ○学習のまとめの多様化
- ③協働的な学び  
○共通課題の学び合い ○他者との対話

## 2 学校全体で目指す授業像

### (1) 目指す児童の学びの姿

主体的に授業に取り組み、学び合おうとする子  
 “個別最適な学び”の充実と“授業のユニバーサルデザイン化”に一体的に取り組み、児童が学習指導要領に示された内容を確実に習得し、資質・能力を身に付けられるようにする。

### (2) 目指す授業像

- ・児童が主体的に学ぶことのできる学習環境を整え、「指導の個別化」「学習の個性化」「協働的な学び」を連動させる授業づくり
- ・「学びに向かう力、人間性等」の涵養に向け、PBL型授業（「問題解決学習」「問題解決型学習」「問題基盤学習」など）の推進。

## 3 学校全体で取り組む授業改善の具体的な取組

### (1) 各教科における授業改善のポイント【全学年共通】

国語	「書くこと」の指導では、児童それぞれに合ったワークシートやICT機器などを選べるように「指導の個別化」を取り入れ、進んで書くことができるようにする。	音楽	コロナで学習が遅れていた歌唱・鍵盤ハーモニカ・リコーダーの基礎的スキルを丁寧に進めていく。指導の個別化を工夫しながら取り入れ、自ら演奏する楽しさを感じることができるようになる。
算数	個別最適かつ発展的な学習に取り組み、PBL型の学習活動を取り入れ、児童自ら課題を見出し、追究させるまた、デジタルドリル（学習履歴が残るもの）をさらに活用し、「学びの調整」に資するようになる。	図画工作	表現と鑑賞の活動を通して、形や色などと豊かに関わり、つくりだす活動を楽しむことができるように、「学習の個性化」を意識して題材の工夫や児童が選択して活動に取り組むことができるようになる。
社会	教科書資料だけでなく、ICT機器を活用し、写真や動画などの豊富な資料を提供することで資料活用スキルを高める。また、単元のまとめ方を児童に選択させることで「学習の個性化」を推進する。	家庭	生活の中で体験したこと、調べたことをまとめ発表し合う活動を通して、言語活動やICT機器を取り入れる。また、スモールステップで課題を設定し、段階的に学習を進められるようにする。
理科	児童一人一人に観察や実験の方法を考えさせ、計画を立てたり、結果を予想したりできるようにする。また、予想と結果を比較し、児童が自分の考えを見直したり、観察や実験の方法を工夫したりするPBL型の学習活動を位置付ける。	体育	体力を高めるとともに、スキルを習得させるためにスモールステップで練習できる場を設定し、「指導の個別化」を取り入れながら運動能力を伸ばしていく。
生活	実物を用意したり、実際の様子について写真や動画の資料を用意したりし、自己の生活と結び付けて考えることができるようになる。	外国語	楽しみながら自分の思いを伝えられるよう、ゲーム形式を取り入れるなど、活動を工夫する。英単語を書く取り組みを入れ、書くことへの苦手意識を少しずつ克服し、文章表現等につなげていく。

### (2) 児童用タブレット端末の活用

デジタルドリルを学校や家庭で取り組ませ、学習ログから個々の学びの記録を把握する。調べ学習の際には、ブリタニカ百科事典を活用する。ICT機器、アプリケーションやeライブラリ、OPE等を活用することで、授業改善・充実につなげていく。